

南のひと 09

写真・文=水野暁子

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を込めて撮影している。



石垣島離島ターミナル内の七人本舗で働く仲松涼子さんと出会ったのは、今から約9年ほど前だ。当時1歳になろうとしていた娘をベビーカーに乗せて石垣島へ買い物へ出かける度に、涼子さんが働く売店で飲み物やおやつを買っていた。

娘が1歳半を過ぎた頃、東北の震災が起こり、姉が1歳になる前の息子を連れて2ヶ月間ほど関東から私たちが暮らす竹富島へ避難してきていた。当時、売店で私たち姉妹と子供たちを見かけると笑顔で接客をしてくれた涼子さんは、それから毎年夏休み

に遊びにくる姉と甥を覚えていて「大きくなったね」とか、「今年も来たのね」と声をかけてくれる。娘には、「すっかりお姉ちゃんになったね、カウンターにとどかなかったのにね」などと話しかけながら日々の成長を楽しそうに見守ってくれている。

売店に用事がなくても涼子さんの顔を見に、お店を覗いて行くお客さんや船員さんがいるそう。私もその中のひとりである。そしてカウンターの向こうに涼子さんが見えたとなぜかホッとするのだ。

水野暁子 みずのあきこ

1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

●島人へのインタビューをまとめて紹介しているYouTubeチャンネル「八重山ライブラリー」も。